



日本國ト各國トノ関稅條約  
改正ノ件ニ付三條ノ説明



114  
A 962



日本國ト各國トノ関稅條約改正ノ件ニ付  
三條ノ説明

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

日本國ト各國トノ関稅條約改正ノ件ニ付余レ命ヲ奉シテ  
茲ニ左ノ三ヶ條ヲ示シ以テ其事ヲ説明ス

第一 獨立國ノ經濟且財政ヲ管理スルノ通法

第二 日本現今ノ經濟及財政ニ應シテ此法ヲ採用スル

7

第三 締盟各國ニ對シ此法ヲ実行スルノ方法及順序

曾テ博學ノ士且テ政學家等ノ著書中ニモ未ダ理財上ニ於  
テ全ク不同反對シタル禁止ト保護ノニ法ノ充テ明了ナル  
區別アルヲ見ス而テ此禁止法ハ二三百年前大ニ盛行ハ  
レ殆ント萬國皆此法ヲ採用シタリ然シナカテ歐洲ニ於テ  
ハ千八百年代ノ末九百年ノ始ニ至テ此法頓ニ廢絶シタリ  
此法ハ固ヨリ外絶獨專ノ法ナリ因テ各國ノ間互ニ貿易且

實際ニ進歩スルニ至ラス却テ障礙セラレタリ而シテ當時  
貨幣金屬及天然勞力ノ諸産物ヲ外國ニ輸出シ若クハ之ヲ  
購ボスルハ損失ニシテ貨幣ヲ以テ此等ノ産物ヲ外國ニ賣  
出スルヲ以テ利益アリト想像シタリ茲ヲ以テ衆意ノ帰着  
ニ派ニ分レ一ツハ外國産物ノ輸入ヲ謝絶シ以テ内國ノ産  
出者ヲシテ其市價ヲ保存セシメント又他ノ一方ニ於テハ  
成ルベク許多ノ製造品ヲ外國ニ輸送シ以テ其代金ヲ内國  
ニ得ント欲ス然ルニ唯賣出ノミニテ買入セサル不合ノ趣  
意ヲ以テ禁止法実行中ハ外國ノ貿易ヲ特別ノ者トナシ特  
許或ハ專賣ヲ以テ之ヲ制限シタリ素リ此特許ハ唯一國獨  
リ懇親或ハ詭譎戦争或ハ他ノ強迫ノ方術ヲ以テノミ得ヘ  
キモノナリ  
保護法ナル者ハ（保護ノ名ハ此法ノ実義ニ於テサレトモ

先ツ仮リニ此名ヲ用ユ）貿易ヲ振興シ交誼ヲ懇親ナラシ  
メ以テ世界各國ト相互ニ自由ノ助力ヲ施シ勞力且ツ何種  
ノ貨物ダモ交換シ得ベキ有無通用ノ道ヲ開ク者ナリ此法  
ニ據レハ貿易ハ特許或ハ某貨物某場所或ハ若干員數ノ製  
限ヲ以テ之ヲ束縛スル者ニアラス自然ニ勞力ヲ互ニ通用  
スルニ至ルモノナリ而シテ之ハ唯性法ヲ以テ能ク之ヲ管  
理シ政府ノ法令ヲ以テ決テ之ヲ管理スルヲ能ハサル者ナ  
リ  
百年以來此新法ハ文明諸邦ノ專ラ確守スル所ニシテ所詔  
ロルトナリスホリ一候カ千八百七十八年十一月二日附ノ  
同氏ノ書翰中ニ陳述シタル如ク英國及萬國ノ貿易ヲ益繁  
盛隆昌ニ至ラシメタル所ノ通法ノ主義ニ更ニ異ナル所ナ  
シ萬國貿易交通ノ自由ナル法ニ於テハ何レノ國ニ於テモ

外國ノ是認ヲ得テ保護法ヲ行フハ各國政府ノ常策タリ而  
テ保護ヲ亦トシテ貿易ノ自由ナル如斯方法ヲ保護法ト称  
セリ然リト云ヘ凡保護ハ決シテ禁止ノ意義ニ非ス但ナカ  
ラ此保護ノ直接タル実効ハ外國ノ原貨物ヲ保護ナク因ニ  
於ケルカ如ク容易ニ賣捌キ以テ其利ヲ得ルハ甚タ難シ  
要スルニ一回ノ保護法ヲ以テ幾何カ外國ノ工業ヲ制理ス  
ル者ナリ但ナカラ之ハ敢テ禁止スルノ法ニアラス而又同  
一ノ物貨ニシテ其品位ヲ變更シ或ハ機械ヲ以テ之ヲ改良  
シタルハ再ニ新價ヲ以テ輸入シ得ヘシ然ラサル場合ニ  
於テモ外國物貨ヲ保護法ニ因テ拒絶スルハ敢テ貿易交通  
ヲ減者或ハ禁止スルニ非スレテ保護ハ産出ヲ振興シ産出  
増殖スレハ各國貿易交通ニ益増加スルノ理ナリ  
保護ノ主意ハ各異同ニシテ最大最小ノ別アリ何国ニ於テ

モ止ムヲ得ス要用トスルトキハ必ス多少保護法ヲ行ハサ  
ル所ナシ又愚見スルニ各國何レヲ論セス本々此法ヲ用ヒ  
サル国ナカレヘシ而シテ大ニ自由貿易ノ進歩ヲ為シタル  
英國ニ於テスラ猶同国ノ域内中ニ尽ク保護ヲ行ハサルト  
ハ決シテ云々タシ況ニヤカナタ濠太利等ノ諸属国ニ在テ  
ハ猶且ツ然ラサルヲ得ス而テ良シヤ英國ハ自由貿易ノ英  
雄タリト驕誇公言ナスト云ヘ凡同国目今ノ景況ニ於テハ  
實ニ大胆ナル試験ニシテ已ニ失錯ニ帰シタリト云ヘリ夫  
レハ他ノ政亦諸邦ハ尽ク共ニ保護法ヲ採用シ以テ之ヲ維  
持セシテ決心シタリ魯獨師及ヒ合衆国ハ素リ保護国ニ  
シテ單ニ其国々工業ノ実況ト進歩トニ関シテ各要用便益  
ト思惟スル保護ノ目途ニ於テ相違アルノミナリ然ラ見レ  
ハ英政府ハ獨リ孤立シテ自由貿易ノ趣意ニ同着スル者ト

言へし是故ニ英國ハ現今ノ自由貿易法一ノ資本ヲ消盡シ  
且フ洪大豊富ノ工業ヲ弃擲シ漸々貧困ニ赴クハ普ク  
各国ノ知ル慶ナレハ必ス早晚保護法ニ恢復スルヲナレハ  
シ  
爰ニ保護ノ定義ト其用法トヲ問ハニ則チ此保護法ハ各  
国産出ノ権衡ヲ平均ナサシムルノ法ニシテ産出メ優等ナ  
ル国ハ他ノ下劣ノ国ヨリモ尚ホ若干ノ勞カヲ用テ幾倍ノ  
價値ヲ産出シ能フヘシ之ニ因テ国財国安ノ大目逐タル此  
價値ハ常ニ産出及ヒ貿易ニ因テ獨リ以優等國ニ輸渡セシ  
トス而テ大凡此價値ハ産出勞カノ多寡ニ據ル者ニアラス  
シテ獨リ竣功ノ工作ニ據ル者ナリ例ハ同等ノ工作物ナ  
レハ如何ニ勞カノ不同アリト云ヘ凡常ニ市場ニ在テハ同  
等ノ價ヲ有スルガ如シ又甲國ニテハ同價同等ノ工作物ヲ

二日間ノ勞カヲ以テ産出シ得ヘキモ乙國ニ於テハ四日間  
ノ勞カヲ費サレハ之ヲ製スルヲ得ス然ルハ乙國ニ於  
テハ必ス甲國ニテ製出セシ者ト同等ノ價ヲ得ニハ一倍  
ノ勞ヲ費サレハ其同價ノ物ニテ産出スルヲ得ス然ル矣  
際ニ至ツテハ此價ノ高ヲ乙國內ノ勞カニ割リ分配セサル  
可ラス然レハ給料ハ同様ナルモ大ニ價ノ下落ヲ来シ以テ  
勞カ社會ノ生計上ニ於テ大ニ困難ヲ醸スヘシ但ナカラ如  
此ノ場合ニ因テ生スル所ノ成績ハ亦タ如此ト者ニシテ止  
ルニアラス而テ劣國ノ人民ハ優國ノ競争ニ堪ヘサル所ヨ  
リシテ許多ノ工作ヲ製出スルヲ能ハス隨テ勞カ社會ノ人  
民ハ大概上等ノ産出物ヲ多數ニ購求スルヲ能ハサルナリ  
然ルカ如キハ農工ノ諸業貿易及航海等ニ至ルマテ尽ク  
衰微シテ更ニ振興ノ勢ヲ失ヒ且百工貿易多ク廢止シ而テ

膏腴ナル耕地且劣國ノ勞力社會人民ニ購求費消シ能ハ  
ナル上等高價ノ諸般ノ農産物モ大半富饒國ノ人民ノ為メ  
ニ占有セラレ終ニ其地ヲ離散セサルヲ得ナキニ至ルヘシ  
然ル所ニ至ラハ劣國ノ人民ハ天與ノ豊饒ヲ失ヒタリ而  
テ禁止法ニ因テ永ク天賜ノ德澤ヲ享ケタリト云ヘん終ニ  
其困難ニ陥ラサルヲ得ス然ルニ日本ノ土地十分ノ九ハ亦  
タ開墾ニ至ラス僅々都府港江ニ接近ノ國ヲ除キテハ亦々  
農業モ更ニ進歩ニ至ラスト謂ヘリ此説余リ太過スルカ故  
ニ其數ノ大半ヲ減省シタルニモモヨ實際此國ハ工業ニ限  
ラス農業ノ勞役ハ殆ト資本及運路（此建築ハ現今ヨリ尚  
巨額ノ資本ヲ要ス）及ヒ善良ノ機械道具及人民費消力ノ  
缺乏ニ因テ大ニ阻碍セラレ、ナリ  
資本ハ積蓄ノ財ナリ茲ニ一國アリ若シ産出ノ下劣ナル故

ヲ以テ充テ平均ノ高ク産出シ能ハサル片ハ隨テ資本モ  
積蓄スル能ハサルナリ然リ而テ第一資本ハ勞力ヲ養活ス  
ル者ナレハ右様劣國ニ於テハ恰モ日本ノ漆器陶器絹布及  
青銅ニ於ケルカ如ク古来ヨリ好尚有名ナル二三ノ國産ヲ  
除クノ外ハ粗悪廉價ノ手工物ヲ製出スルニ過キサルノミ  
而シテ右様ノ手工物ハ輸出モ亦誠ニ僅少ニシテ專テ不逞  
ノ廉價ヲ以テ内國ノ消費ニ供スルノミナリ是故ニ若シ産  
出下劣ノ國ニテ優國ト大ニ競争ヲナサントスルハ其國ノ  
資本積蓄ノ道ヲ遮断スル者ナリモンテスク、氏ノ論ニ  
輸入ノ帝ニ輸出ニ超過スル國ハ貧困ニ赴クニ隨テ先ツ出  
入ヲ平均シ而ル後漸々輸入ヲ減少シ采テ終ニ一物タモ輸  
入シ能ハサル程ノ貧困トナル者ナリ  
如此不幸ニ先ツテ他ノ一大災害アリ金銀ノ輸出即チ是ナ

リ輸出入ノ平均ヲ得ナル国ハ金貨ヲ以テ其權衡ヲ平均セ  
サルヲ得ス然ルハ貨幣飛散スルカ故ニ産物運轉ノ具モ  
俱ニ失フカ如シ而テ國産ト其定價トノミハ漸々不動ニ赴  
キ以テ終ニ衰頹ヲ極ハメ災難絶ルナカレハシ然ルトキ  
此ヲ救済スルノ術ハ紙幣ヲ發行シテ稍其困難ヲ減少シ得  
ヘキト云ヘ凡苟モ右紙幣ト正貨トノ交換嚴密ナラサルハ  
ハ紙幣ノ價格ハ常ニ高低シテ以テ正貨ノ代用ヲナス能ハ  
ス况テ一定確立ノ地位ヲ有セサルニ於テ万ヤ若シ劣国ト  
優国ト限リナキ競争ヲナスニ至ツテハ必ス左ノ成績ヲ避  
ク可ラス夫レハ有價産物ノ缺乏資本及ヒ職業ノ需用且農  
工職業ノ進歩振興ニ障礙アルト巨額ノ輸出品ヲ産出シ能  
ハサルト且給料ノ下落活計ノ衰微金貨ノ拂底及價格不足  
ノ紙幣漸々弊害ヲ生スルト即テ是ナリ

宇内萬国トモ右様外国競争者ト交通スルハ由テ以テ起  
ル所ノ弊害ヲ避ク可ラサルハ実験ノ以テ證スル所ナリ此  
ヲ豫防スルニ始メ各国互市ヲ開キタル時代ニ於テハ禁止  
法ヲ以テ一般ノ主義トナシタルモ尔采萬国トモ自由貿易  
且交際法ヲ採用シタリ而テ永久無窮ノ獨立国ニ於テハ優  
国ト競争スルニ其制限ナキ片ハ必ス其国ノ存立安全ニ禍  
害アルヲ以テ平常之レヲ避ケントニ注意シタリ爰テ以テ  
國産ヲ防禦セシカ為メ外国輸入品ニ保護稅ヲ賦課スルハ  
一般ノ通慣トナレリ政府素ヨリ法畧ヲ施シテ自己ノ國産  
ヲ獎勵シ以テ益振興セシムルノ良策アリト云ヘ凡先着ス  
ヘハ第一ニ保護法ヲ用ヒテ直接ニ輸入品ノ價格ヲ減省  
シ間接ニハ外国競争者ノ産出ヲ遏減スルニ在ルナリ前陳  
スル如ク此保護ハ敢テ禁止法ニアラス然レハ又文明政学



家ニ帝ニ嫌棄セラル、退却ノ政略ニアラス此法ハ専ラ各  
国ノ産出ヲ平均ナラシムル者ニシテ尋常ノ政畧ニ因テ其  
平均ノ当ヲ得難キ優等ノ抑壓ニ對抗スル自護自防ノ計策  
ナリ然リ而テ此ノ保護税ハ諸優等国ト競争ノ為メニ招キ  
来マス所ノ貧困衰微ニ比スレハ外國貿易上ニ障碍アル  
真ニ微々タル者ト云フヘシ而テ又此税法ハ弊害ヲ醸ス者  
トナシ或ハ然ルト思惟スル者ナキニフラスト云ヘ凡固ヨ  
リ此保護税ノ弊害ハ最モ微々タル者ニシテ一時輸入ヲ抑  
制スルニ似タレ凡隨テ右保護国ノ産出需用ハ俱ニ増殖ス  
ルニ至ルガ故ニ後未却テ輸入ヲ正大ニ導クノ楮券ナリ  
機械或ハ汽力電力ノ如キ原力ヲ以テ或ハ藝学ノ術ヲ以テ  
或ハ善良ナル機械工具ヲ以テ製出シタル工産物ハ各国相  
互ニ經濟上ヨリ需用多キカ故ニ其品價モ亦隨テ騰貴スル

者ナリ是ヲ以テ必ス保護ヲ要スルハ文明各国ノ実験ニ依  
テ證スル所ナリ此レニ及シテ農産物ハ已ニ氣候ト距離  
トノ天然ノ保護アルハ其價モ工産物ニ比スレハ貴カラス  
故ニ保護ヲ要セサルナリ  
是ヲ以テ内国工業ノ進歩ヲ容易ナラシメ且益鞏固ナラシ  
メ之ヲ為メ専ラ外國ヨリ輸入ノ工業品ニ限り保護税ヲ課  
スルナリ然リ如斯クナスハ何レノ国ヲ論モ工業ノ振  
作益速ニシテ之ヲ資小ト政策トヲ以テ助勢ヲナスハ内  
産及輸出ハ益巨額ノ増加ニ至ルヲ疑ヒナシ然ルニ外國ヨ  
リ廉價ヲ以テ購得シ得ベキ物品ヲ内国ニ産出セント計ル  
ハ曷メ天理ニ背反スル者ト是レ一般ノ通論ナリ然リ然レ  
凡此レハ誠ニ偏小ノ論ナリ素ヨリ爰ニ論スル所ノ趣意ハ  
買収ニアラスシテ専ラ産出ニアルガ故ニ尚如斯キ許多ノ

通論アリト云へ、凡茲ニ贅言ヲ用ヒス第一自國ノ産出ハ外  
品ヲ買収スルノ基本ナルカ故ニ先キニ國産ヲ保護シ以テ  
擴大ナラシムルニ至ラサレハ決テ満足ノ買入ヲナスヲ能  
ハサルハ万国ノ実証スル所ニシテ況テ産物豊饒タル文明  
各國ニ對シ保護法ヲ用ヒス專ラ競争ヲナシタル産物下劣  
國ニ於テハ尚更適宜ノ証ナリ

各國ノ財政ハ其國産ニ関繫スル者ナルカ故ニ常ニ理財ハ  
國産ト平等均一ナラサルヲ得ス如何トナレハ政府ノ歳出  
物納金納ヲ向ハス年々田地ト労働ヨリ生シタル産物ヲ除  
キ他ニ賦課スルヲ能ハサルカ故ナリ而テ苟クモ國産ノ額  
ヲ減少シ輸出輸入俱ニ零落シテ貨幣濫出スルハ其國ノ  
國財モ疲弊ニ至ラサルヲ得ス如此場合ニ際シテハ定期ヲ  
以テ定額ノ地稅及其他ノ諸稅ヲ續テ賦課シ或ハ其定額ヲ

ヲ増加セサルヲ得ス然リト云へ凡如此ノ諸稅ヲ収過スル  
ハ人民ノ負擔亦重煩ニシテ益堪ヘカメキノ艱難ニ至ル  
ヘシ況テ國政ヲ維新シ亦タ曾テ見聞セザル公用ノタメニ  
巨額ノ歳入ヲ支消スル國ニ於テハ別テ此勢情ヲ免カル  
ヲ得ス

常ニ言フ國民殷富ナレハ其政府モ亦豊富タルヲ得ヘシ苟  
クモ國民ノ産出買収力ニ疲弊スルハ又其國獨立ノ威權  
モ隨テ衰弱スヘシ茲ヲ以テ其國産ノ進歩ヲ維持スルノ政  
略ハ即チ其國ノ獨立ヲ保存スルニ敢テ異ナルヲナシ然リ  
然レ氏如斯ク政畧ハ單ニ自國限り緊要ノヲナレハ敢テ各  
國交際上ノ公義ニハ大ニ反對スル者トス

第二條

現今日亦ノ景況ハ恰モ一歩ハ禁止法ヲ行ヒ他ノ一歩ハ宇  
内各国ト廣ク自由貿易ヲ競争スル異常ノ情體ニ居ルカ如  
シ此国ハ數百年來此禁止ノ政畧ヲ嚴行シタリト云ヘトモ  
二三十年前ヨリ已赤ハ各国トノ交際ヲ專ラニセリ然リ然  
レトモ本夕曾テ保護法アルヲ見サルナリ是ヲ以テ見レバ  
此国ノ現況ト政畧ハ全ク禁止法ト保護ナキ自由交通トノ  
ニ反對物ヲ以テ成立シタルモノ、如シ斯ク不合不適ナル  
情形ハ一時非常ノ功績ヲ遂ケタルニモセヨ久シク如此ク  
シテ災害ヲ生セス永續スルヲ請ハサルカ故ニ此レヲ論ス  
ルハ必要ノヲナリ殊ニ日本国開明ノ進歩ト其幸福ヲ諳知  
セサル政事家ト雖モ如斯キ景情ニ於テハ實ニ奇異ノ思ヲ  
ナスヘレ假令理論上ニ於テモ如斯不合ノ情勢ノ永續ヲ防

大藏省

カサレ可ラサレナリ

千八百五十八年及千八百六十六年以來ノ関稅條約ヲ以テ日本及々各國トモ數年間ノ工業貿易ノ突況ニ関シテ充分ニ其成績ハ見ルニ足レリ爰ニ関稅局發行ノ統計表ニ就テ其突績ノ如何ヲ見レハ

輸出入總額表第一

輸出	千八百六十九年	十二百九十九万八千九百七十八円
輸入	千八百六十九年	二千〇七十万三千六百三十三円
總額	千八百六十九年	三千三百六十九万二千六百十一円
輸出	千八百七十二二年	千七百〇二万六千六百四十七円
輸入	千八百七十二二年	二千六百七十七万四千八百十四円
總額	千八百七十二二年	四千三百二十万四千四百六十二円

輸出 二千百十四万二千〇十四円

千八百七十三年

輸入 二千七百六十一万七千二百六十四円

總額 四千八百七十五万九千二百七十八円

輸出 二千七百五十三万四千四百五十七円

千八百七十六年

輸入 二千五百十二万八千九百九十七円

總額 五千二百六十二万五千三百五十五円

輸出 二千六百九十万八千六百〇七円

千八百七十七年

輸入 三千百九十三万三千三百十二円

總額 五千八百八十四万九百六十九円

千八百六十八年ハ輸出ノ總額千五百五十五万三千四百七十二円輸入ノ總額千〇六十九万三千〇七十一円ニシテ輸

省

出入ノ總額ハ二千六百二十四万六千五百四十四円ナリ而  
テ此六十八年ノハ其年生糸蠶繭紙及茶ノ輸出非常ナルニ  
因テ充テ輸入高ニ超過シタリ是ヲ以テ之ヲ計算外ニナシ  
タルナリ而テ千八百七十八年以前十ヶ年ノ間ニ輸出高一  
千二百九十万八千九百七十八円ヨリ二千六百九十万八千  
六百〇七円ニ増加シ輸入高ハ二千〇七十九万三千六百三  
十三円ヨリ三千百九十三万三千三百五十二円マテ増加シ  
タレハ其輸出入ノ總額三千三百六十九万二千六百一十一円  
ヨリ五千八百八十四万九千九百六十円ニ増加セリ之ニ因テ  
見レハ輸出ハ二倍余ノ増加ニシテ輸入ハ二ト三ノ割合ノ  
増加ナレハ輸出入ノ總額ハ三千三百万円ヨリ五千八百万  
ノ高ニ増加シタリ右第一表中ノ諸計算ニ就テ左ノ意見ヲ  
決定セリ

第一 日本ハ毎歲輸入高輸出高ニ超過シタリ然レドモ本  
タ充テ國産ヲ以テ此ノ償フヲ能ハサレハ必ス正貨ヲ以テ  
其不足ヲ拂ヒ隨テ資本ヲ消尽スルノ勢ニ至ルヘシ  
第二 輸出ハ輸入ヨリ漸次ニ増加シテ凡ソ二倍余ノ額ニ  
至レリ而テ輸入ハ非常ノ額ニ上リタル千八百七十七年ヲ  
除クハ僅カニ千万円ヨリ二千五百万円ノ増加ナリ茲ニ  
依テ見レハ現行ノ稅則ハ外國輸入品ヨリ割ニハ日本輸出  
産ノ増加ヲ證スルナリ因テ各國政府ハ日本ヘノ輸入高如  
斯僅少ノ増加ニテハ實ニ得益ノ者トナサ、ルベシ  
第三 日本貿易ノ總額外國ニ比較スレハ非常ニ僅少ナリ  
抑千八百七十六年大不列顛貿易ノ總額ハ三十六億テ  
レ佛國ノ總額ハ二十二億テレ獨國ノ總額ハ十八億テ  
レ合衆國ノ總額ハ十三億テレナリ而テ日本ノ總

額ハ其年僅カ四千八百万円ノ高ナリ此ニ反シテ日本ノ人  
 員ハ三千三百万余ニシテ佛獨合衆国ノ人員ハ稍其高ヨリ  
 多トト云ヘ氏英國ハ其高ニ及ハス之ニ依テ見レハ目今日  
 本國ハ現行ノ條約ニ因テ産出ノ割合誠ニ僅少ナリ故ニ其  
 國ノ進歩繁昌ヲ期セント要セハ必ラス現今ノ條約ヲ改正  
 セサルヘカラス

金銀貨輸出入表第二

千八百七十二年	輸出	四百五十八万四千七百七十円
	輸入	三百六十九万五千五百〇九円
	輸出越高	八十三万二千六百六十一円
千八百七十三年	全	五百十二万六千二百二十七円
	全	百〇六万九千九百五十八円

千八百七十四年	全	四百六十四万二千二百六十九円
	全	千三百九十九万五千二百〇二円
	全	百〇三万二千〇四十四円
千八百七十五年	全	千二百五十二万四千〇二十四円
	全	四百四十七万九千二百二十八円
	全	七百六十四万四千八百九十六円
千八百七十六年	全	七百三十九万五千三百〇五円
	全	四百三十九万五千五百三十九円
	全	二百九十九万九千七百七十六円

千八百七十七年	全	千。九十四万。七百六十円
	全	百四十万。三百五十五円
	全	九百五十四万。四百。五円

千八百七十二年ヨリ千八百七十七年マテ

輸出総額	五千四百五十万五千六百八十八円
輸入総額	千六百。六万。五百三十三円
輸出超過	三千八百四十四万五千百五十五円

此表ヲ按スレハ千八百七十二年ヨリ千八百七十七年マテ  
 六ヶ年ノ間常ニ金銀貨ノ流出高巨額ニシテ未タ具流入高  
 ヲ以テ之ヲ補償スルコトナシ而テ現行ノ税法ニ準シ此国ノ  
 正貨ハ外国ニ流出シ只紙幣ヲ以テ具代用ヲナセリ殊ニ金

貨ハ大概海外へ濫出シタルナリ千八百七十二年ヨリ千八  
 百七十七年マテ金貨ノミノ輸出高ハ三千百五十万二千二  
 百三十五円ニシテ突ニ正貨輸出総額三分ノ二ナリ如斯ク  
 金貨流出スルノ故ヲ以テ外国ニ反對シテ只銀貨ノミ其国  
 ニ存在シ且貿易上為替相場ノ如キモ隨テ損失ヲ免カレ、  
 ヲ得ナリシナリ是ヲ以テ日本ハ現行ノ貿易條約ニ據テ金  
 貨ノ損失且輸出入ノ不平均ヲ突驗シタリ素ヨリ日本ハ  
 亦タ獨立タル工業国ニアラサルカ故ニ有價ノ国産ヲ以テ  
 具輸入ヲ弁償シ得ハナレハナリ  
 輸出入品ヲ各生品製品ノニ類ニ區別シ先ツ輸出ノ生品ヲ  
 示ス左ノ如シ

生品輸出表第三

品名	千八百六十八年	千八百七十二年	千八百七十三年	千八百七十六年	千八百七十七年
鮑魚	六万四千五百三十四円	九万三千二百四十二円	十一万四千六百〇二円	十八万七千五百五十四円	二十万三千〇九十円
石炭	七万九千五百十九円	十八万〇二百七十八円	二十二万五千五百五十八円	十八万五千七百二十四円	三十四万五千〇十六円
銅	一万九千五百四十円	八十八万六千九百八十八円	七万四千八百〇七円	二十三万五千八百六十三円	五十六万四千四百円
錫	十二万五千八百五十三円	二十七万八千九百九十円	二十八万二千〇二十九円	三十一万五千五百十八円	四十九万七千七百三十二円
椎茸	十一万六千〇十七円	十万六千〇〇四円	十五万三千九百三十一円	三十二万七千八百六十四円	三十万二千五百三十五円
板呂布	十六万三千四百四十八円	二十九万六千四百九十二円	三十九万七千四百四十七円	三十五万八千三百六十一円	三十六万七千五百六十八円
生糸	六百三十一万八千八百二十円	五百三十七万三千五百二十九円	七百三十七万八千二百八円	千三百四十七万八千九百九十九円	千〇八万五千八百八十円
蠶繭紙	三百七十七万二千三百五十五円	二百二十四万七千三百六十五円	三百〇六万三千〇三十七円	百九十万二千二百九十円	三十四万六千九百九十八円
蛹	八万〇四百八十一円	二十五万六千三百三十九円	二十五万六千五百三十八円	五十三万六千六百七十九円	二十九万五千二百八十五円
茶	三百三十四万四千九百六十五円	四百一十二万四千四百六十三円	四百五十六万九千九百四十九円	四百九十三万三千九百九十九円	四百三十七万七千四百九十六円
煙草	一万〇九百十四円	三十万〇七百六十四円	二十七万九千四百七十二円	十四万七千七百三十一円	二十五万三千四百二十八円
蠟	三十一万八千七百七十八円	二十八万三千九百五十四円	四十五万七千九百九十七円	二十二万二千百円	十万四千〇二十円

總額

千四百五万四千六百二十円  
 千四百四万五千三百四十九円  
 千七百二十五万五千七百七十六円  
 二千二百八十万四千〇五円  
 千七百六十六万二千七百十八円

第三表ニ列記スル諸品ハ工業産ヨリ寧ロ天産ニ属スル者ナリ素ヨリ此天産物ト云ヘ凡亦具天然ノ混合物ヲ分拆シ以テ費消或ハ産出用ニ適スル如ク夫レヲ調製スルマテハ若干ノ労働ヲ要スルナリ然リ然リト云ヘ凡此レヲ市場ニ運搬スル以前ハ如斯キ労働ニ誠ニ僅少ナルカ故ニ其品價モ隨テ区々タル者ナリ而テ如斯キハ先ツ天賜ノ国産ヲ收獲スル初歩ノ労働ニシテ只初製ノ器具ト單一ナル手勞トヲ以テ為シ得ヘキ者ナリ此様ノ産出術ハ年久シク開明ノ今世ニ至ルトモ猶保存シ得ヘシト云ヘトモ礦漢業等ノ如キハ緊要ナル工業貿易且財政ノ基ニナルヘキ者ナリ但シナカラ苟クモ機械學術等ノ助成モナク又其産出國ヨリ具自己ノ船舶ヲ以テ運送スルヲナク國內ノ費消用又ハ産出



用ノタメ具最初ノ物貨ニシテアラサル以上ハ工俵貿易ニ  
 関係セス國ノ幸福進歩ニ要用ナル職業ヲ與ユルヲ能ハサ  
 ルナリ若シ人口多キ國ニ於テ決大ナル職業如斯クナル形  
 情ニシテ過ルトキハ其國內中労働ノ欠乏ヲ生スルヲ必然  
 ナリ況テ上等有價ノ労働ニ於テオヤ前條天産物ノ如キハ  
 各國トモ各其國労働ノ為メ貴重ナル養物ニシテ之ヲ目的  
 トナサ、ルハナシ然ルニ日本ハ此天産物ヲ萬國ニ播布ス  
 ルヲ以テ其自國労働ノ道ヲ失ヒ終ニ外國ヨリ其労働ヲ買  
 得セサルヲ得サレニ至ルヘシ  
 第三表ニ列載スル十二種ノ天産物ハ日本國年々ノ産出ニ  
 シテ且輸出スル所ノ品ナリ而テ此輸出高ハ新開ノ幼稚國  
 或ハ父母邦ヨリ全ク孤獲セラル、属國等ノ輸出ニ比較ス  
 レハ甚巨額ノモノト謂フヘシ而テ此輸出高ト第一表ト記

載スル輸出總高ト照比スレハ即チ左ノ如シ

輸出總額	千五百五十五万三千四百七十二円
生産輸出	千四百。五万四千六百二十円
差引	百四十九万九千二百五十二円
全	千七百。二万六千六百四十七円
全	千四百四十二万七千三百四十九円
全	三百三十九万九千二百九十八円
全	二千百十四万二千。十四円
全	千七百二十五万五千百七十六円
全	五百八十八万六千八百三十八円

歳  
月

千八百七十六年	全	二千七百五十三千四百五十七円
	全	二千二百八十一万四千〇五十円
	全	四百六十八万九千四百〇七円
千八百七十七年	全	二千六百九十万八千六百〇七円
	全	千七百七十六万二千七百六十八円
	全	九百十四万五千八百三十九円

右ノ照比高ヲ觀レハ日本國輸出高ノ内天産物ノ輸出亦モ其多キニ居ル即チ千八百六十八年ノ輸出高千五百万円ノ内千四百万円且千八百七十二年ハ千七百万円ノ内千四百万円ハ總ラ天産物ノ輸出ナリ而又右輸出高ノ年々増加ノ平均モ外國ニ比スレハ突ニ僅少ナリ即チ千八百六十八年ヨリ七十七年マラ拾ケ年間ニ千四百万円ヨリ千七百万円

ニ至ル即チ三百万円ノ増加ナリ而テ日本ノ天産物ノ此増加高ノミナラス輸出物價モ過半ハ内外商人問屋船長其他ノ手ニ止マルヲ以テ其輸出物ノ突價ハ突ニ僅少ノ者ナリ故ニ日本産出者及勞力者ノ買得力且賣力モ俱ニ僅少ナルニ至ルナリ

天産物ノ巨額ノ輸出高モ漸々平均減少スルカ如シヲ見レハ人民モ隨テ經濟上ノ進歩ヲ為シタル如クナレドモ決シテ然ル所以ニアラス第一日本輸出天産物ノ品種ハ前條ニ列載スル生産十二種ニ限ルニアラス但シ此品種ハ最要ノ者ニシテ尚其他ニ天産物數種アリ其輸出ハ前條期限中ニ甚タ増加シタルヲ以テ輸出ノ總額モ亦隨テ増加シタルナリ然レトモ工業物ハ決テ増加ヨナナルナリ此事日本関稅局編案ノ輸出入比較表ヲ一見スレハ明了ナリ第一右最

大蔵省

要ノ輸出品十二種ノ内ニホタ米麥粉及雜貨且船用品ノ如キ魚稅品ヲ加入セナルナリ然ルニ此等ノ諸品ハ千八百七十三年以承巨額ノ輸出ヲナセリ茲ニ右諸品ノ後來ノ輸出ヲ計リ右ノ輸出ト全額ノ輸出トノ差違即チ左ノ如シ

千八百七十三年	四百八十七万二千九百九十三円
千八百七十六年	二百七十七万八千五百六十二円
千八百七十七年	三百十四万。二百八十四円

此計算ニテハ漸々天産物輸出進歩ノ状況モ見ヘナルナリ然ル所以ハ則チ十ヶ年間に日本最要品ノ輸出ハ只千四百万圓ヨリ千七百万円即チ一ト三ノ割合ノ増加ヲナシタルノミヲ以テナリ但シナカラ右十ヶ年間にハ人口モ増殖シ輸出品ノ價モ騰貴シタルヲ以テ寧スレハ更ニ増加ヲ生セタルナリ且此ノミナラス前條輸出ノ天産物十二種ノ中生系

蠶繭紙茶及米ノ如キハ日本國ニテモ有名ノ産物ニシテ輸

出高モ實ニ巨額ニ至リ是ニ依テ右品ノ産出多少ニ依テ輸出ノ総額モ上下スル程ナリ而テ右有名産ノ内生糸及米ノ輸出ハ千八百七十六年及千八百七十七年ニ於テハ其品高及價額トモ別テ非常ノ巨額ニ上リタリ抑毎年生糸ノ輸出平均ハ五百万円ノ高ナレバ千八百七十六年ニハ右ニト千三百五十万円ニ上リ千八百七十七年ニハ千万円余ノ高ニ上リタリ而テ又千八百七十四年及千八百七十五年ノ米ノ輸出平均高ハ三四十万円ナルニ千八百七十六年ニハ百五十万円ニ上リ千八百七十七年ニハ五百五十万円ノ高ニ上リタリ然ルニ茲ニ右非常ノ巨額ヲ減シテ年々ノ平均高ニ算計スルトキハ千八百七十六年及七十七年ニケ年ノ天産物輸出総額ノ内ヨリ九百万円乃至千万円ニ下ラサル高ノ

減少アリ而テ此減少高ヲ前條揭示ノ最要ノ天産物輸出増  
 加トスル三百万円ノ高ニ比較スレハ更ニ右増加高ノアラ  
 サルノミナラス及テ六七百万円ニ下ラナル高ノ不足ヲ生  
 セリ而テ其割ニテ日本人民ノ産出及費耗力ニモ甚シク損  
 害ヲ與フヘシ右ハ第二表中ニ示ス如ク貨幣ヲ以テ必ラス  
 此輸出産物ノ不足ヲ補償シタルナリ夫レハ年々金銀貨幣  
 ノ輸出高ハ平均四百五十万円ナルニ千八百七十六年ハ七  
 百万円余ニ上リ千八百七十七年ニ至テハ殆ント一千一  
 百万円ノ額ニ上リタル故ヲ以テ明了タリ  
 日本國ハ工業産ヲ以テ外国輸入品ヲ賠償シ能フノ機會ヲ  
 得ナリレトハ左ノ表ヲ見テ以テ證スルニ足レリ

最要ノ製造品輸出表第四

品名	千八百六十八年	千八百七十三年	千八百七十六年	千八百七十七年
鑄器	三百二十三円	一万七千六百三十円	四万二千四百八十九円	一万四千五百五十二円
銅器	五千。八十六円	一万。二百五十二円	一万九千二百七十一円	三千六百九十六円
本綿織物	六千四百四十九円	千六百五十八円	八千七百九十五円	一万四千三百二十六円
陶器	二万三千。十四円	四万五千五百三十一円	十万六千四百八十円	七万七千九百。二円
日本鐵	千。三十七円	七百四十四円	四百六十円	五百六十円
漆器	一万七千。六十五円	八万八千。二十八円	十五万九千四百四十五円	十五万四千。三十二円
書物用紙	千五百六十円	一万七千七百十五円	九千五百。九円	一万四千七百十四円
絹織物	千二百。四円	一万九百三十四円	一万三千六百二十円	九千五百三十六円
絹衣服		七千。四十三円	一万六千五百十五円	五千二百四十九円
總計	五万五千七百三十八円	二十万。五百二十五円	三十八万六千五百十四円	二十九万四千五百六十七円

右表ハ外国市場ニ現出スル所ノ日本國工業品ノミヲ擧ク  
 タル者ナリ右表中ノ數額モ實ニ僅少ノ高ニシテ工業各國

ノ割合ニ對比スル能ハサルナリ然リ而テ若シ古来ヨリ日本高名ノ工業品ニシテ各国ノ屯モ賞讃スル所ノ陶器及ヒ漆器ノ巨額ノ輸出ナカリセハ右表中ノ數目モ尚ヤ少ノ高ニ至ルハシ但シ右陶漆二品ハ終ラ贅沢品ニシテ専ラ富家ノ用ニ供スルタメ輸出スル者ナルヲ以テ其輸出高モ一般中等人民ノ買用スル他ノ製造品ノ割ニハ増加セサルナリ因テ製造品ノ輸出總額ノ内ヨリ右二品ヲ控除スルトヤハ其殘額ハ誠ニ日本財政上ニ於テ注目スルニモ足ラザルヤ火ノ高ナリ良シヤ右二品ヲ減除セサルモ右總額ハ聊満足スヘキ高ニシテ且日本國ノ競争力ハ亦タ以テ外國工業ノ平均高ニ及ハサルヲ遠シ然リト云ヘドモ右第四ノ輸出表中ノ數目ハ聊カテカラモ漸々増加ニ赴クヲ察知セリ然テ見レハ日本國ハ工業上勉強進拔ノ能力ヲ有スル

カ故ニ苟クモ外國抑壓ノ競争ニ對シテ相當ノ保護ヲ施スニ至ラハ強勸以テ尚洪大ノ進歩ヲナスヲ得ヘシ然ルニ日本國関稅局ノ報告ニアル輸出ヲ摺キ今轉シテ輸入ヲ觀察スルニ當リ前條ノ表ニ依ツテ見レハ常ニ輸入ハ輸出ニ超過シ而テ此超過ヲ償却センカ為メ日本貨幣ヲ外國ニ送出シタリ然リ而テ輸入品ノ種類ニ就テ査檢スルニ工業品ノ輸入ハ遙カニ天産物ニ超過シタリ爰ヲ以テ見レハ常ニ外國ハ日本ニ割ニハ許多ノ工業品ヲ輸送シ以テ日本國ノ工業ヲ衰弱セシメタルコトヲ知ルニ足ルナリ

製造品輸入表第五

品名	千八百六十八年	千八百七十二年	千八百七十五年	千八百七十六年	千八百七十七年
巴黎品	八万二千百八十九円	五万五千。三十三円	二万千百三十円	四千百六十七円	四千百二十六円
カウチ	十七万二千百五十八円	二十万二千六百七十九円	四十二万四千四百四十九円	十六万三千四百四十九円	五十三万八千二百八十二円



雞類  
糸  
計

九十二万三千八百三十四円	百十九万二千三百六十四円	三百六十八万八千四百一十八円	四十二万八千四百一十八円	六十万五千五百四十三円
百二十三万九千五百八十円	五百三十三万五千五百一十円	三百四十万二千二百二十五円	四百十五万五千六百六十五円	六百六十九万三千三百一十九円
五百八十九万五千六百五十九円	千五百七十八万六千二百七十五円	千六百三十二万六千七百九十二円	千四百三十四万二千七百四十五円	千四百八十八万八千八百一十円

右第五表ニ掲載スル三十種ノ物質ハ各國就ハ羅巴且英國ノ工業産ニシテ専ラ日本ニ輸入スル處ノ製造品ナリ而テ右ノ輸入品ト第三表ニ掲載スル天産ノ輸出品ト比較スレハ各國ノ廣大豊富タル工業産三十種ノ輸入額ハ千八百七十二年ノ過額ノ輸入ヲ除ク外ハ亦日本産十二種ノ輸出額ニ達セザルヲ左ノ數額ヲ見テ證明スヘシ

輸出	千四百。五万四千六百二十円
輸入	五百八十九万五千。六十三円
差引	八百十五万九千五百五十七円

千八百七十二年	全	千四百四十二万七千三百四十九円
千八百七十三年	全	千五百九十八万六千二百七十五円
千八百七十四年	全	千七百二十五万五千七百七十六円
千八百七十五年	全	千六百三十二万六千七百九十二円
千八百七十六年	全	九十二万九千三百八十四円
千八百七十七年	全	千二百八十二万四千。一十円
千八百七十八年	全	千三百三十四万二千七百四十五円
千八百七十九年	全	千四百四十七万千三百。五円

千八百七十七年 全 千七百七十六万二千七百六十八円  
 千四百十八万。八百。一円

全 三百五十八万九百六十九円

右ノ数額ハ日本ノ為メ輸出入ノ著シキ差引ケ示ス即チ千八百六十八年ノ差引高ハ八百万円ナリシニ千八百七十六年ハ殆ト千五百五十万円ノ高ニ及ヒタリ然リ而テ右輸出高ニ尚千八百七十三年以来関税局輸出入表中ニ掲載シタル米麥粉并船用品ノ輸出高ヲ加エレハ右差引高モ尚多数ノ額ニ及ブヘレ右米麥等ノ輸出高ヲ輸出総高ニ加ユルトハ更ニ輸出入ノ差引高左ノ如キ増加アリ

千八百七十三年 百九十四万三千二百二十九円  
 千八百七十六年 千三百三十八万二千五百五十円  
 千八百七十七年 九百五十八万七千五百二十二円

千八百六十八年ノ差引高ハ八百万円ナリシニ其年以来ハ右差引高モ余程ノ増加ヲナシタリ

此ニ依テ日本輸出入ノ関繋ヲ見レハ日本ノ輸出高ハ外国ノ輸入高ヨリ遙ニ多ク又他説スレハ外国政府ハ日本貿易上ニ於テハ輸入政策上ヨリ多ク輸出政策ニ関係シタリ然レハ千八百五十八年及千八百六十八年ノ関税約定ニ因テ創起スル理財法ハ日本及各国双方俱ニ幣害アル者ニシテ況テ英国ノ獨リ頑然トシテ輸入ヲ得策トスル自由貿易法ハ著シク其国ノ産出者及ヒ費耗者ノ実易ニ相及スルコト顯然タリ

茲ニ尚右関税約定ノ日本国ノミナラス外国ノ産出者及ヒ商估ニモ均シク損害ノ成績アルヲ示セシメ且又現行ノ方法ニ依ラモ外国品輸入ノ超過ハ甚障碍ナレタルヲ



ヲ確足ス

日本ニ輸入シタル製造品ノ高ト輸入ノ総高トヲ比較スレ  
ハ製造品ノ輸入ハ年々見レク減少シタルヲ左ノ數額ニ因  
テ明了タリ

輸入總高 千。六十九万三千。七十一円

千八百六十八年 製造品輸入高 五百八十九万五千。六十五円

差引 四百七十九万八千。六円

全 二千六百七十七万四千八百十四円

千八百七十二年 全 千五百七十八万六千二百七十五円

全 千。三十八万八千五百三十九円

全 二千七百六十一万七千二百六十四円

千八百七十三年 全 千六百三十二万六千七百九十二円

全 千百二十九万。四百七十二円

全 二千五百十二万千八百九十七円

千八百七十六年 全 千百三十四万二千七百四十五円

全 千三百七十七万九千五百五十二円

全 三千百九十三万三千九百五十二円

千八百七十七年 全 千四百十八万。八百。一円

全 千七百七十五万二千。五十一円

如斯シテ見レハ右輸入ノ差引ハ毎歲製造品輸入高減少シ  
テ他品ノ輸入高ヲ増加シタリ即チ千八百六十八年ハ右差  
引高四百万円ナルニ千八百七十二年ハ一千万円ニ上リ千

八百七十三年ハ千百万円千八百七十六年ハ千三百万円及  
 千八百七十七年ハ千七百万円余ノ高ニ上リタリ細説スレ  
 バ現行ノ條約ニ依ラ従来莫太ノ利潤ヲ得タル外國殊ニ英  
 国工業ノ勉勵ニ似合ハス日本ニ輸入シタル製造品ノ高ハ毎  
 歳減少シタルナリ

日本ニ輸入シタル製造品ノ減少ハ只對比高ニ限ラヌ實際  
 ノ數額ニ於テモ減少シタルヲ左ノ如シ

千八百七十二年	製造品輸入高	千五百七十八万六千二百七十五円
千八百七十三年	全	千六百三十二万六千七百九十二円
千八百七十六年	全	千百三十四万二千七百四十五円
千八百七十七年	全	千四百十八万。八百。一円

右ニ依ラ見レハ千八百七十二年ハ千五百万円千八百七十  
 三年ハ千六百万円ノ高ナレバ千八百七十六年ニ至ラハ只

千百万円千八百七十七年ニハ千四百万円ニ減少シタリ然  
 レハ一歳ニ付平均少クモ三百万円ノ減少ナリ而テ右數額  
 ヲ參見スレハ疾クニ一タビハ増加ノ極点ニ達シ而テ今ヤ  
 年々貿易及産物トモ漸々疲弊下落ニ赴ムクヲ以テ万一向  
 未益下落セラ底止スルナケレハ到底驚クヘキ下落ニ及ハ  
 ンテヲ恐懼スヘキ程ナリ

儲又輸入ノ下落ハ左ヲ以テモ亦明了ナリ即チ関稅約定矣  
 行後ニ三年ノ計算ト最後ノニ三年分トヲ對計スレハ千八  
 百六十八年ノ輸入高ハ五百万円ナリシニ已ニ三倍ノ増加  
 ヲナレ千八百七十二年及七十三年ニ至テハ一倍余ノ増加  
 ナリ然ルニ千八百七十六年及七十七年ニ及テハ漸ク二倍  
 ニ達スル程ノ高ナレハ三ト二ノ割合ニシテ殆ト半額ノ減  
 少ナリ然レハ稅額モ右ノ割合ニ準シテ些少ノ高ナレハ日

小ノ租税ニ損也アリシト必然ナリ  
 現今ノ稅法ニ因テ起ル所ノ製造品輸入ノ減少及歳入ノ下  
 落ハ輸入各種物貨ノ照比額ヲ參計スレハ益判然ニシテ右  
 各種物貨ノ輸入高ハ千八百七十二年及七十一年以來ハ勿  
 論七十六年以後ト去ヘドモ益減少シタルト左ノ如シ

巴黎品	千八百七十八年 八万二千八百八十九円	千八百七十七年 四万二千二百六十円
ブラニケツト	千八百七十二年 二十七万二千六百七十九円	千八百七十六年 十六万三千四百四十五円
雜織體	千八百七十三年 十三万。七百八十三円	千八百七十七年 八万九千五百十六円
時計	千八百七十四年 十一万。四百四十六円	千八百七十七年 九万。九百十五円
生金巾	千八百七十一年 四百三十六万二千。二十円	千八百七十七年 百八十五万。四百。九円
小幅金巾	千八百六十八年 二十六万五千二百五十五円	千八百七十七年 十五万二千八百十二円
綿天鷲絨	千八百七十三年 八十万三千五百四十九円	千八百七十六年 六十万九千八百二十七円

減少高

唐棧	千八百七十四年 四十万四千五百三十円	千八百七十六年 九万。六百円
办綿引	千八百七十三年 七十六万六千七百五十一円	千八百七十六年 二万七千七百四十八円
家具	千八百七十三年 八万二千五百五十九円	千八百七十六年 一万七千六百。九円
窓硝子	千八百七十二年 四十五万二千五百八十六円	千八百七十五年 五万九千四百九十七円
手拭	千八百六十八年 三万二千五百六十九円	千八百七十五年 六千七百。一円
鐵器	千八百七十三年 九万九千三百三十円	千八百七十六年 五万七千八百八十八円
麻布	千八百七十三年 十三万。四百九十一円	千八百七十六年 九千七百。四円
機械類	千八百七十三年 二十六万三千八百五十三円	千八百七十六年 十万九千。三十五円
靴類	千八百七十二年 二十九万六千六百十五円	千八百七十七年 一万三千五百三十四円
絹布類	千八百七十四年 五万七千六百五十五円	千八百七十六年 三万三千三百十六円
毛織類	千八百七十三年 九千六百七十五円	千八百七十六年 八百七十二円
卷煙草	千八百七十二年 十二万四千三百六十一円	千八百七十六年 三万七千六百五十一円
傘類	千八百七十三年 四十一万六千六百十六円	千八百七十七年 一万九千六百六十二円

大鐵箱

羅 紗	千八百七十二年 三百。三万六千四百八十円	千八百七十六年 三十万三千二百六十九円
英 呂	千八百七十二年 四万八千二百二十八円	千八百七十六年 一万八千。四十八円
縮 呂	千八百七十二年 八十八万七千九百三十二円	千八百七十七年 十九万九千。五円
毛 布	千八百七十三年 三百六十万八千。四十一円	千八百七十六年 四十二万八千。四百十八円
雜 類		
總 計	千七百。三万二千九百二十円	四百三十九万八千。十一円

右ニ掲載スル一十四種ノ物價ノ減少總高ハ千二百七十三万四千九百。九円ナリ一種ニ付各平均五十万円ノ減少ニシラ一ヶ年ニ三百万円ノ減少ナリ

然ルニ如斯ク不幸ノ結果アル税法ニテハ外國日本俱ニ衰微ヲ招クノ必然ノ理ナリ然ルモ尚右税法ハ千八百七十八年十一月二日附ロルドサリスボリ候ノ書翰中同氏ノ陳述スル所謂英國及萬國ノ貿易ヲ益繁盛隆昌ニ至ラシメタ

心貿易通法ノ主義ト称ス可キ者カ亦夕解スルノ能ハサルナリ英國及外國政府ノ偏倚ノ輸入法則ヲ自由貿易法ハ獨リ日本ノミナラス他ノ締盟各國殊ニ英國ニ於テモ甚夕有害衰減ノ法タルヘレ

茲ニ一般ノ貿易下落ニ相関セサル一緊要品アリ亦綿糸即チ是ナリ右品ノ輸入高ハ千八百六十八年百二十三万九千五百八十圓ナリシカ千八百七十二年ニハ五百三十三万五千四百一十一圓ニ増加シ千八百七十七年ニ至テハ六百六十九万四千三百二十九円ニ増加シタリ且又千八百六十八年ノ斤數ハ三百六十五万八千六百九十四斤ナリシガ千八百七十二年ニハ千三百。三万三千七百二十三斤ニ増加シ千八百七十七年ニハ二千四百九十二万。二百。二斤ニ増加シタリ矣ニ石ノ如ク亦綿糸ノ輸入ハ價額斤數トモニ毎歲巨

大 續 前

額ノ増加ヲナシタリ一休右品ノ如斯ク格外ニ輸入ノ多ク  
 ハ右品家内用及ヒ工藝上ノ諸術ニ欠ク可ラサル普通ノ要  
 品ナルノミナラス殊更ニ織物且紡績ノ物料ニ供スル第一  
 等ノ緊要品ナルカ所以ナリ

最要ノ天産物輸入表第六

品名	千八百六十八年	千八百七十二年	千八百七十三年	千八百七十六年	千八百七十七年
咖啡	七百四十二円	一万一千五百七十七円	一万三千六百六十一円	九千九百三十一円	一万四千。四十九円
藥種	八万二千二百。二円	十七万。八百三十九円	十一万四千八百八十四円	五万七千九百四十二円	七万九千九百八十六円
漆料	二万。八百四十七円	十二万二千七百七十円	二十万四千九百三十二円	十五万七千百十二円	二十一万九千八百九十七円
熟皮	三万三千七百六十八円	七万二千二百七十二円	十六万一千六百三十二円	二十七万八千六百八十七円	四十六万三千七百二十九円
洋酒類	十六万七千六百十四円	二十九万二千九百七十九円	四十万三千二百五十円	二十六万。六百。五円	三十二万二千七百五十七円
製藥	一万五千六百二十二円	十三万。六百九十六円	十四万八千三百七十一円	二十四万八千二百四十九円	四十三万五千八百六十四円
石炭	七千二百三十五円	十六万。六百。八円	三十三万。五百九十八円	三十八万六千五百十五円	百一十七万七千五百六十五円

食料	白砂糖	馬口板	鉄板	總計
五万二千四百四十五円	八十七万二千八百。八円	三千四百六十九円	百三十四万五千五百二十二円	十三万五千八百三十五円
十三万五千八百三十五円	百六十七万七千四百。八円	千七百二十一円	二百七十六万九千二百八十五円	十七万七千六百三十円
十七万七千六百三十円	二百十五万八千八百八十円	一万七千七百。二円	三百七十四万千。四十円	十二万七千三百六十二円
十三万七千二百八十七円	二百九十八万七千三百七十七円	五万四千二百五十四円	五百八十三万二千七百二十五円	十三万七千二百八十七円

右第六ノ表中ニ掲載スル十種ノ物貨ハ大概外国ノ風土收  
 植上ヨリ産出スル所ノ天産物ニシテ之レニ無税輸入ノ石  
 茶鉛粉等ノ如キ同種物ヲ加ユルニ更ニ一ツノ工業保護ヲ  
 施スヘキ者アラス況テ咖啡藥種製藥酒類砂糖石炭ノ如キ  
 者ハ普通諸般ノ使用ニ欠ク可ラサル緊要品ニシテ又農工  
 上必用ナル物料ナリ是ヲ以テ右種物貨ノ如キハ工業上ノ  
 目的ニアラスシテ只會計上所謂間接ノ税ヲ課スル者ナリ  
 日本ニ輸入ノ右最要ノ天産物ノ價額ハ實際九百五十万円  
 ヲリ五百五十万円殆ト四倍ノ増加ヲナシタリト云ハ之

大藏省

ヲ輸入総額ニ對計スレハ其額ノ甚シク減少シタルヲ五ノ  
 數目ノ如シ

輸入総額	千。六十九万三千。七十一円
天産物輸入額	百三十四万五千九百二十二円
差引	九百三十四万七千五百四十九円

千八百七十二年	全	二千六百七十七万四千八百十四円
全	全	二百七十六万九千二百八十五円
全	全	二千三百四十六万五千五百三十九円

千八百七十三年	全	二千七百六十一万七千二百六十四円
全	全	三百七十四万四千。四十円
全	全	二千三百八十七万六千二百二十四円

千八百七十六年	全	二千五百十二万八千八百九十二円
全	全	四百二十三万九千八百五十三円
全	全	二千。八十八万二千。四十四円

千八百七十七年	全	三千百九十三万三千三百五十二円
全	全	五百八十三万二千七百二十五円
全	全	二千六百十。六百二十七円

右ノ如ク天産物輸入額ト輸入総額トノ毎歲ノ差引ハ千八  
 百六十八年九百万円ヨリ千八百七十二年及七十三年ニ於  
 テ二千三百万円ニ増加シ且千八百七十七年ニハ二千六百  
 万円ニ増加シタリトスハ氏三十一ノ割合ノ減少ナリ然リ

大藏省

而テ割合ニ右天産物輸入額ノ下落シタルハ日本殖産ノ欠  
 乏ト諸品各ノノ元價ト品位及需用ノ多寡ニ拘ラレ課スル  
 魚蔵ノ税法トニ歸  
 スルカ如キ同等ノ  
 トモニ需用スル酒類砂糖食料ノ如キ者ノ輸入ノ  
 種送料等ノ廉價品ハ需用ニ隨テ廣大ナルカ故ニ右品等ノ  
 輸入上ニ障礙ヲナスコト顯然タリ  
 最要ノ天産物ノ輸出ト同産ノ輸入ト品種ハ全ク異ナルト  
 云ハ此之ヲ比較スレハ輸入ハ減少ナク反テ左ノ算計ノ如  
 ク増加ヲナシタリ

此年ノ天産物輸入額ハ前年ノ比  
 千八百六十八年ノ輸入額ハ  
 千四百五十九万二千二百二十円  
 千八百六十九年ノ輸入額ハ  
 千三百五十一万四千三百三十六円

天産物

輸出	千四百。五万四千六百二十円
輸入	百三十四万五千五百二十二円

輸出超過

全	千二百七十万九千。九十八円
全	千四百四十二万七千三百四十九円
全	二百七十六万九千二百八十五円
全	千百六十五万八千。六十四円
全	千七百二十五万五千百七十六円
全	三百七十四万千。四十円
全	千八百七十三年
全	千三百五十一万四千三百三十六円

而テ割合ニ右天産物輸入額ノ下落シタルハ日本殖産ノ欠  
 乏ト諸品各ノノ元價ト品位及需用ノ多寡ニ拘ラレ課スル  
 無識ノ税法トニ歸着セリルヲ得ス而又上等高價ノ品ニ課  
 スルカ如キ同等ノ稅ヲ下等廉價品ニ課スルニ至テハ貧富  
 トモニ需用スル酒類砂糖食料ノ如キ者ノ輸入ハ勿論製藥  
 種染料等ノ廉價品ハ需用ニ隨テ廣大ナルカ故ニ右品等ノ  
 輸入上ニ障礙ヲナスコト顯然タリ  
 最要ノ天産物ノ輸出ト同産ノ輸入ト品種ハ全ク異ナルト  
 云ハ氏之ヲ比較スレハ輸入ハ減少ナク反テ左ノ算計ノ如  
 ク増加ヲナシタリ

天産物

輸出	千四百。五万四千六百二十円
輸入	百三十四万五千五百二十二円

輸出超過

全	千二百七十万九千。九十八円
全	千四百四十二万七千三百四十九円
全	二百七十六万九千二百八十五円
全	千百六十五万八千。六十四円
全	千七百二十五万五千百七十六円
全	三百七十四万。四十円
全	千八百七十三。年
全	千三百五十一万四千百三十六円

上表ノ此ノ  
 所以ハ日本



輸入額ノ下落シタルハ日本殖産ノ欠  
 ト品位及需用ノ多寡ニ拘ラズ課スル  
 べシルヲ得ス而又上等高價ノ品ニ課  
 フ下等廉價品ニ課スルニ至テハ貧富  
 砂糖食料ノ如キ者ノ輸入ハ勿論製藥  
 需用ニ隨テ廣大ナルカ故ニ右品等ノ  
 一顯然タリ  
 ト同産ノ輸入ト品種ハ全ク異ナルト  
 ハ輸入ハ減少ナク反テ左ノ算計ノ如

輸出 千四百。五万四千六百二十円  
 輸入 百三十四万五千五百二十二円

輸出超過 千二百七十万九千。九十八円

全 千四百四十二万七千三百四十九円  
 全 二百七十六万九千二百八十五円  
 全 千百六十五万八千。六十四円  
 全 千七百二十五万五千百七十六円  
 全 三百七十四万。四十円  
 全 千三百五十一万四千百三十六円

水  
 穀  
 畜

此表ノ如ク云ト一ノ割合ニ天産輸入物減少セリト云ル  
 所以ハ日本殖産ノ不充分ト不富ト稅法ト三因セリ

千八百七十六年	全	二千二百八十一万四千。五十円
千八百七十七年	全	四百二十三万九千八百。十三円
千八百七十八年	全	千八百四十七万四千百九十七円
千八百七十九年	全	千七百七十六万二千七百六十八円
千八百八十年	全	五百八十三万二千七百二十五円
千八百八十一年	全	千九百九十三万。四十三円
千八百八十二年	全	千九百九十三万。四十三円
千八百八十三年	全	千九百九十三万。四十三円
千八百八十四年	全	千九百九十三万。四十三円
千八百八十五年	全	千九百九十三万。四十三円
千八百八十六年	全	千九百九十三万。四十三円
千八百八十七年	全	千九百九十三万。四十三円
千八百八十八年	全	千九百九十三万。四十三円
千八百八十九年	全	千九百九十三万。四十三円
千八百九十年	全	千九百九十三万。四十三円

右ノ如ク日本天産物ノ輸出超過高ハ千八百六十八年ニハ  
 九千二百万円ナリシカ千八百七十二年及七十三年ニ至テ  
 千一百万円ニ減少シタルヲ以テ見レハ天産物貿易上ノ權  
 衡ハ漸々外國ニ傾向スルヲ明了タリ然リ而テ日本ニ於テ  
 外國産ノ砂糖油熟皮食料酒類等ノ消費ハ日本茶箱烟草及

魚類等ノ外國ニ於ケレヨリモ漸々尙廣大ニ起ツカ故ニ日本  
 ハ次第ニ其天然ニ享有スル所ノ國産ヲ以テ輸入ヲ償却シ  
 能ハサルノ不幸ニ陥ラントス原ヨリ日本ノ工業産ハ亦々  
 充分ナラサルカ故ニ若シ現今ノ形情ニテ消費スルハ日本  
 ハ又何ニ據テ以テ買得カヲ得ント欲スル哉之ニ答フルニ  
 只一言アルノミ夫ハ日本ハ原ト具工業産ヲ以テ輸入ノ償  
 辨ヲナス能ハス依ラ外國ノ為ニ唯其資財ト天産物ヲ竭尽  
 スルカ故ニ終ニハ其天産物ヲ以テモ其償却ニ充ルヲ能ハ  
 サルニ至ルヘシ  
 千八百七十三年及七十六年ノ如キハ割合ノ不同ナシト云  
 ヘ氏若シ千八百七十三年以來ノ巨額ノ米麥及船用品等ノ  
 輸出ニ注目スレバ却テ反對ノ割合ニ至ルナラシ此説ヲ  
 駁スルニ先ツ第一ニ前條ニ掲載スル年期ノ常例ノ平均數

大蔵省

目ハ非常ニ絹布ノ巨額ノ輸出ニ因テ生スル僅カ一二年ノ  
 例外ノ増加ヲ以テ必ス其平均ノ割合ヲ反對スルト云々  
 カタシ素ヨリ如斯ク絹布ノ巨額ヲ例額トシテ輸出スルハ  
 敢テ希望スル所ニアラサレハナリ第ニハ米ノ輸出ナリ  
 苟クモ輸出入ノ平均ヲ保持セシカ為メ益具輸出ヲ盛大ニ  
 セサルヲ得サルニ至テハ第ニ日本人民ノ滋養品ナル食物  
 ハ貿易平均ノ為メニ種々ノ高低ヲナシ且實際止ムヲ得サ  
 ル具價値ノ騰貴ニ因テ日本貧民ハ到底之ヲ以テ滋育スル  
 能ハサルニ至ルヘシ是ヲ以テ常ニ日本人民ヲシテ責テハ  
 外国人ト同一ニ米ノ買得カヲ得セシムルノ方法ヲ以テ之  
 ノ管理セサル可ラス然ル由縁ハ右米ヲ以テ緊要ノ滋養ニ  
 アラサレ酒類油熟皮等ヲ購入スルノ危険ヲ冒シ且右諸品  
 ノ平均ヲ償却セシタメ右米ヲ輸出セシムルヲ恐懼スルカ故

ナリ

前條所論ノ説ヲ熟考スレハ現行ノ関稅約定ハ左ノ要點ニ  
 於テ其主義ノ不充分ト其關係ノ甚有害ナル證アルヲ確  
 信セリ

- 第一 實際ニ施シ難ク且全ク相反スル禁止ト自由貿易法ヲ試ニ合セ行ヒ恰モ日本ヲニツニ分割シ以テ各反對ノ方面ニ居ラシメタリ
- 第二 貿易ノ平均及ヒ金銀貨並通貨ノ本位ヲ失フタリ
- 第三 輸出入ハ其平均ノミナラス實際ニ於テモ平常巨額ノ減少ヲナシタリ
- 第四 日本国及締盟各国ノ工業及貿易上ニ於テ更ニ進歩ト固結カヲ發生セサリシナリ

大 實 省

1912年

目ハ非常ニ絹布ノ巨額ノ輸出ニ因テ生スル僅カ一二年  
例外ノ増加ヲ以テ必ス其平均ノ割合ヲ反對スルトハ云  
カタシ素ヨリ如斯ク絹布ノ巨額ヲ例額トシテ輸出スル  
敢テ希望スル所ニアラサレハナリ第一ハ米ノ輸出ナ  
苟クモ輸出入ノ平均ヲ保持セシカ為メ益其輸出ヲ盛大  
セサルヲ得サルニ至テハ第一日本人民ノ滋養品ナル食  
ハ貿易平均ノ為メニ種々ノ高低ヲナシ且實際止ムヲ得  
ル其價值ノ騰貴ニ因テ日本貧民ハ到底之ヲ以テ滋育ス  
能ハサルニ至ルヘシ是ヲ以テ常ニ日本人民ヲシテ責テ  
外国人ト同一ニ米ノ買得カヲ得セシムルノ方法ヲ以テ  
ヲ管理セサル可ラス然ル由縁ハ右米ヲ以テ緊要ノ滋養  
アラサレ酒類油熟皮等ヲ購入スルノ危険ヲ冒シ且右諸  
ノ平均ヲ償却セシタメ右米ヲ輸出セシムルヲ恐懼スルカ

ナリ

前條所論ノ説ヲ熟考スレハ現行ノ関稅約定ハ左ノ要巨  
於テ其主義ノ不充分ト其關係ノ甚有害ナル證アルヲ  
信セリ

- 第一 實際ニ施シ難ク且全ク相反スル禁止ト自由  
易法ヲ試ニ合テ行ヒ恰モ日本ヲニツニ分割  
以テ各反對ノ方面ニ居ラシメタリ
- 第二 貿易ノ平均及ヒ金銀貨並通貨ノ本位ヲ失フ  
リ
- 第三 輸出入ハ其平均ノミナラス實際ニ於テモ平  
巨額ノ減少ヲナシタリ
- 第四 日本國及締盟各國ノ工業及貿易上ニ於テ更  
進歩ト固結カヲ發生セサリシナリ

日本國及締盟各國ノ工業及貿易上ニ於テ更  
進歩ト固結カヲ發生セサリシナリ

第五 日本政府ハ唯名ノミノ税法ノ採用ニ因テ内外  
産物ニ課スル間税ヲ以テ其財政ノ需用ニ供ス  
ルヲ能ハサルカ故ニ悉ク直税ヲ其国民ニ負擔  
セシメタリ然レバ漸々人民ハ其負擔ニ堪ヘ難  
キ苛酷ニ至ラントス  
右ノ情実ヲ以テ日本ハ工業及財政上ノ需用ニ尚一層満足  
スヘキ税法ヲ設立セシムカタメ左ノ趣意ニテ條約改正ヲ要  
スルハ必然ノ理ナリ

- 第一 工業財政ノ區別ヲ尚一層精密ニナス
- 第二 物質ノ賣消或ハ産出用ニ適スル性質具元價及  
結成物ニ隨テ尚品種ヲ類別スル
- 第三 保護ヲ以テ工業且職業ヲ鼓舞シ得ヘキ物質ノ  
如キハ之ニ重税ヲ賦課スル

- 第四 固有ノ主義ヲ以テ相當ノ税法ヲ設立シ且之ヲ  
進接セシムル
- 第五 財政或ハ国政上重要ナル米等ヲ除クノ外一切  
輸出税ヲ廢止スル

第三條

各国ト締盟ノ条約改正ヲ完成スル方法ト順序ニ関シテ各  
 国政府ハ己ニ日本政府ヨリ右改正ノ照會ヲ接シ各日本政  
 府ノ千八百六十六年条約第二十條ニ準シ現行条約ノ改正  
 ヲ要求スル権ヲ承認シタリト云ヘ凡各国外全ク其改正ノ  
 大関目ヲ達シ能ハサル制限ヲ與ヘタリ  
 英国政府ハ保護政策ヲ実行スヘキ改正ト条約中ニ明示ス  
 ル者ヨリ尚便益ナラサル改正ハ承允シ難キ旨ヲ閑陳シタ  
 リ  
 佛国政府ハ輸入税ヲ増加シテ佛国商品ノ輸入ヲ益障碍シ  
 或ハ他各国ノ輸入ヨリ尚便益ナラサル各種ノ税價ヲ定ム  
 ルヲ承諾セサルヘシ若シ之ヲ承諾セハ其報酬トシテ外  
 国人ノタメ日本内地ヲ開キ以テ自由ニ其農工及鑛業ニ從

事セシメニテ請求ス

伊国政府ハ増税ヲ以テ尚超過スヘカラサル高度ノ税額ヲ  
要求シ且ツ他国ヨリ尚伊国人民産物及船舶ニ負擔ノ堪ヘ  
難クシテ便宜ナラサルヲハ更ニ約スル能ハスト豫言シタ  
リ

獨国及其他ノ政府ハ亦タ何タル回答ヲ為サスト云ヘトモ  
獨リ魯国政府ハ何等ノ故障モナク心能ク関稅約定改正ノ  
商議ヲ承諾シタリ

是ニ依テ見レハ日本政府及締盟各國各互ニ悞和同意セサ  
ルヲ明了ニシテ右各國ハ日本政府ノ改正ノ所望ノ宿意ニ  
及シタルケ条制限或ハ論外ノ要求ヲ以テ右改正ノ商議ヲ  
承諾セントス約定ノ如キハ亦タ新條約取結ニ付テ肝腎ナ  
ル五ノ應諾ト為シ難シ

現行ノ條約ニ依ラ定メタル日本政府ノ義務ト各國ノ要求  
トヲ査究スレハ即チ左ノ如シ

第一 千八百六十六年ノ條約ニ右附録ノ稅則ハ千八百

七十二年七月一日ニ於テ改正スヘシトアリ

第二 千八百五十八年ノ條約ニハ日本或ハ本國政府ニ

テ右改正ヲ願フ片ハ五ニ一ヶ年前ノ報知ヲ為シ

タル後双方ヨリ全權委員ヲ以テ右突驗ノ要スル

改正ヲナスヘシトアリ

日本ト大不列顛國ト取結ヒタル千八百五十八年八月二十

六日ノ條約第二十二條ニ兩國ニテ一ヶ年前ニ通達シテ右

改正ヲ要求スヘシトアリ

右條約ノ文體ハ各異ナルト云ヘトモ其意義ニ於テハ皆同

一ニシテ追々他各國ト取結ヒタル條約モ文體ハ聊不同ア

如何ヲ疑フ  
三全文百  
生百

リト云ハトモ意ハ又更ニ異ナル所ナレ而テ日本政府ノ各  
国ト約定シタル義務モ総テ同一ノ者ナリ

右義務ヲ解明スレハ左ノ三件ノ如シ

第一 税則ヲ改正シ或ハ新タニ約定スルカ如キハ必定

者ニアララス  
日本政府ノ主權ニシテ締盟各国ノ敢テ施行スル

第二 右改正ハ突地ヲ驗シテ尚再驗ヲナスコトナレハ苟

クモ関税約定中突地要用ナラサル請求ハ兩國ノ

主意ニアララス依テ全ク之ヲ商議ニ附ス可ラス是

故ニ日本政府モ亦各国ヨリ突驗セサル請求ヲ拒

絶スルノ權アリ

各国ハ突驗ニ依リテ現行条約ニ於テ要用ナラサル格外ノ

請求ヲナスコト能ハサルハ至当ノコトナリ將又新税則ヲ議定

スルハ日本政府ノ特別タル主權ナルカ故ニ若シ右ヲ突驗

シテ理財上等ニ於テ必然緊要ナルト一決セハ之ヲ施行セ

サル可ラス

改正ハ新条約ヲ以テ施行セサル可ラス然レハ又締盟各国

ノ承諾ヲ得サル可ラス法律家ハ則チ之ヲバクトデユニト

ラヘンドフト称ス(約定ヲ取結ハント要スル義務ナリ)此

バクトデフトラヘンドフハ無功無責ノモノタルハ法律

家ノ論說ヲ奉クルマテモナク万国公法ニ貴重スル性法ノ

趣意ニ於テモ如斯キ盟約ハ己ニ取結ヒタル約定ヲ謂フニ

アラズ將ニ取結ハントスル約定ヲ云フナリ是ヲ以テ苟モ

右約定ニ肝腎ナル義務ノ調ハサル如キコトアリテ右ヲ突行

セサルハ石盟約モ隨テ無功ノ者タルヘシフナリモ

ル氏ノ説ニズク甲乙二人ノ間ニ取結フ約定ノ功カヲ確実

大歳



ナラシメシカ為メニハ右仲間ノ五ノ承諾ヲ得ルヲ要用ナ  
リ此ニ均シク兩國ノ条約ニ於テモ右様ノ承諾ヲ得ルヲ緊  
要ナリ且單ニ商議ノミニテハ未タ以テ約定シタル者トナ  
シ難タシト然レハ苟クモ承諾ヲ得ルニアラサレハ条約ト  
ナシカタシト云ヘハ又承諾ナクシテハ条約締結ノ義務モ  
無キ理ナリ如何トナレハ実施シ難キヲ行フノ義務ナケ  
レハナリ且又双方互ニ承諾ヲ經タル約定ニ於テ確定タル  
義務ナキ片ニ至テハ各自己國有ノ権理ヲ保存スルハ至当  
ノ理ニシテ例ヘハ家主ガ其家ヲ他人ニ賣與シ或ハ讓與セ  
サル間ハ其所有ノ権ヲ有スルカ如シ又若シ某政府カ何事  
件ニ拘ハラス他政府ト約定ヲ取結ハントシテ苟モ承諾ヲ  
得サル片ハ他政府ノタメニ其國有ノ主權ヲ伸縮サル、  
ナク自由ノ執行ヲナスモ亦右ノ理ニ同シ如何トナレハ未

タ確定タル条約ヲ果タサ、ルカ故ナリ  
是故ニ苟クモ日本政府ハ所要ノ税則改正ニ付テ各國ノ承  
諾ヲ得ル能ハサレハ止ムヲ得ス自己主權ノ自由執行ニ回  
復シ日本立法行政ハ為メ自己獨立ノ税則ヲ設立シ以テ會  
盟ノ者ニ代ユルノ権理ヲ有スルヲ当然ナリ茲ニ苟クモ右  
承諾ノ實際ニ根據セス或ハ法外ノ伸縮アリ或ハ日本ノ主  
權ニ帰スル者ニアラサレハ承諾ヲ得タル者ト看做スルヲ  
得サルヲ再言ス  
然ルニ各國ハ必ラス言ハン右ノ如キ決定ハ新条約取結ヒ  
ノ片ニ限り正当ノ者トスレ氏己ニ確定タル条約ヲ以テ議  
定シタル約定ハ更ニ新条約ヲ以テ之ヲ改正スルマテハ永  
存スヘキ者トナスヘシト  
但シ此言未タ信憑スルニ足ラス抑モ条約ハ他ノ諸約定ニ

同レノ荷夫レニ掲載シタル約定ノ道德公義良策ノ主義或ハ  
緊急ノ国幣ニ相反スル片ハ必ス之ヲ廢シ得ヘシ且又其条  
約ノ切カモ定期ヲ以テ限制スル主義ノ者ナレハ更ニ之ヲ  
定期スル能ハサルヘシ

抑万国ノ条約ハ悉テ真正ナル約定ナルカ故ニ公平不偏ノ  
解明ヲ為スヘキ者ナリ苟ゾモ条約遵守ニ細密ナル信義ヲ  
以テスルハ万国公際ノ要訣ナリト云ハ、獨リ具行文ノミ  
ナラス具趣意ニ依テ註解ヲ下サ、ル可カラス

然ルニ兩國ハ一ヶ年前ニ通達シテ千八百七十二年七月一  
日ニ於テ条約改正ヲ要求シ得ヘシトノヶ条ハ裁判上及ヒ  
国政上ニ於テモ兩國互同ノ承諾ヲ以テ新条約取結フヘキ  
若ノ限制アリテ条約ヲ改正スルノ權アリト解得セサルヲ  
得ス

条定如何

全局ニ付テノ疑問左ノ如シ現行条約ヲ改正スルノ權ハ全  
ク新条約ノ承諾ニ依ルヘキ者哉又他説スレハ関稅条約ハ  
新条約取結ヒマテハ永續スヘキ理アル者哉

右ノ疑問ハ無論否マサルヲ得ス如何トナレハ各国各財政  
需用ノ景情ハ常ニ變換シ實驗モ益昇達シ又財政国政ノ関  
係モ變更増加スルカ故ニ関稅条約ハ單ニ期限ヲ定メテ永  
續シ能ハサル者トス是故ニ各国ハ實際上ニ於テ敢テ永久  
ノ貿易及関稅条約ヲ取結フ者ナシ而テ相互ニ新様ノ条約  
ヲ定期年限中ニ改正スルノ權ヲ所有スルナリ

日本政府ト改米各国トノ条約取結ヒ於テモ亦此法ニ準  
據シタリ然リ然リト云ヘトモ改正ハ更ニ約条ヲ以テスヘ  
キヶ条ノミ之ニ及ビリ  
一目スレハ改正ノ權ト締盟国ト共ニ改正承諾ヲナスノ義

勢ト結合セシ者ノ如シ然リ然レトモ此結合ハ本々分離ニ  
難タミトハ決シテ去フテ解ハス如何トナレハ前陳スル如  
ク苟クモ双方ノ承諾相調ハナルトキハ各自自然ノ自由ヲ  
恢復シ以テ其固有ノ權ヲ執行スヘシ而又貿易條約ハ其性  
質ニ於テモ又各國ノ實際ニ於テモ必ス有期ノ者タルカ所  
以ナリ  
締盟各國ハ敢テ允許セサル日本獨立主權ヲ管理スルカ如  
キ大ニ反對ノ説ヲ陳述シタリ素ヨリ斯様ノ管理權ヲ貿易  
條約中ニ決シテ許與シタルトナシ然ルニ英國及ヒ其他各  
國ノ右様ノ托説ハ獨立主權管理ト懇親ノ承諾トヲ相混淆  
シタル者ノ如シ是故ニ現行條約遵守ノ信義ニ違反シタル  
者トシテ排斥セサル可ラス  
承諾ハ管理ニアラス又決シテ他國ヲシテ我自己ノ主權及

利益ニ抵抗シ且ツ自國ノ意嚮及利益ニ相及スル政畧ヲ施  
行セシムル權ヲ附與スル者ニアラス  
管理ハ國ノ固有主權ニ障礙アリト云ヘトモ承諾ハ決シテ  
然ルカ如キ者ニアラス茲ヲ以テ締盟各國ハ曾テ日本ノ主  
權ヲ管理シタルト更ニナケレハ唯双方互ノ理會ヲ得ヘキ  
承諾ノ法ヲ以テノミ日本ト交通ヲナシ得ヘシ而又前條ニ  
陳述シタル條約改正權ト會議ニ因テ改正スル義務トノ関  
繫ハ敢テ日本政府ノ固有主權ノ自由執行ヲ抛弃シタル者  
ト為シ能ハス苟クモ然ラサレハ條約ハ約定ニアラスシテ  
服従ノ者ナリ  
締盟國ハ双方熟議ヲ遂ケ以テ相互ニ承諾スルニアラサレ  
ハ決シテ條約ノ契約ヲ脱却シ或ハ之ヲ改正スル能ハサル  
ハ万国公法至要ノ主義タリ

右神聖タル主義ノ信實タル遵守ハ万国ノ和親ニ関繫スル  
カ故ニ苟クモ偏頗自得ノ意ヲ以テ承諾ニ管理ヲ以テシ且  
双方熟議ニ不撓ノ反對説ヲ以テスルカ如キハ必定右ノ主  
義ヲ背犯スル者ナリ

現行条約中ノ改正个条ヲ一目スレハ双方互ノ承諾ヲ以テ  
改正ヲ為スヲ約成シタル者ナリ且立行両法ノ諸務ト同一  
ニ稅務ノ高裁上ニ於テモ日本ノ主權ヲ動カス可ラサル者  
トシタルハ疑ヲ容ル、ヲ用ヒス

固ヨリ實際ニ施行シ難キトヲ確乎完全ス、ハキ条約ハ未タ  
之レアラサルナリ而又締盟各国ト集合同一ノ関稅条約ヲ  
施行セントスレハ實地決テ行ハルヘキ者ニアラサルヲ了  
察セリ殊ニ欧州二三ノ国相互ニ（例ヘハ獨国ト墺国或ハ  
佛国ノ間ノ如シ）貿易条約ヲ設定スルスラ甚容易ナラヤ

ルニ苟クモ斯様ノ条約ヲ貿易各国相共ニ取結ハントセハ  
實ニ堪ユ可ラサル困難ヲ生ス、ニ如何トナレハ各国素リ  
貿易工業需用情體ニ於テ各甚異同アリ或ハ自由貿易法ヲ  
行ヒ或ハ保護法ヲ施スカ如シ且輸出入ノ関繫モ各異ニシ  
テ相互ニ全ク反對シタル者アリ然リ而テ斯ノ反對不同物  
ヲ集合セントスルノ一舉ハ永タ以テ日本國ニ施行シ能ハ  
サル所ナリ且假令斯ノ反對ヲ集合一致セシメント汲々ス  
ルモ實ニ徒勞ニ屬ス、ヘシ素リ日本モ格別ニ區別ヲ立テス  
又互同ノ思慮モナキ往昔ニ在テハ右様ノ困難モ少ナカラ  
シカナレトモ今ヤ日本政府ハ專ラ開明主義ヲ重シ互同ノ  
利便ヲ得ントスル所ナレハ裁判上ニ於テモ又道德上ニ於  
テモ實驗以テ日本ノ政界利益ニ全ク反對ス、ク証スル所  
ノ情體ヲ再用シ或ハ之ヲ遷延スルノ義務ナカルヘシ

是ヲ以テ現行ノ日本税法ハ文明各國今尚実行スル所ノ通  
義ニ相反スル者ニシテ況テ數年ノ実験ニ依リテ日本ノ財  
政及貿易工業ノ進歩且獨立ニ甚損害アルヲ証シタリ而  
テ日本政府ハ千八百七十二年以来実験ノ以テ要用トスル  
改正ヲ実行セシカクテ類ニ締盟各國ノ承諾ヲ得テ之ヲ圖  
リタリ殊ニ又日本主要ナル利益ヲシテ互同承諾ノ理ニ符  
合セサル各國ノ論說ノタメ之ヲ曖昧ニ付シテ終ニ中止ス  
ルヲ得ス苟クモ締約ノ承諾得難キニ至テハ各天稟自由ノ  
固有權ヲ保守スヘシ之ニ因テ日本政府ハ余理ニ於テ其固  
有獨立權ヲ擅行シ以テ天稟ノ自由ニ回復スルノ權アルヲ決定セリ  
右ノ決定ニ依テ日本政府ハ尚左ノ權理ヲ有ス  
右決定ノ書翰ニ日本貿易景況ノ詳細書ヲ添ヘテ締盟各國  
ニ差送ルヲ且又同時ニ現行税法ハ一ヶ年若クハ半ヶ年間

保存シ然レ後日本政府ハ各國ト互同ノ承諾ニテ至要ト記  
スル約定ノ商議ニ着手セシムモ布告スヘシ而テ日本政府  
ハ自定ノ稅則ヲ作り之ヲ一ヶ年若クハ半ヶ年ノ後會盟ノ  
約定ト共ニ具功カク有セシムヘシ但シ如斯キノ処置ニ付  
テハ必ラス各國ノ議論ヲ惹起スル疑ヒナシ然ルレニ至ツ  
テハ日本政府ハ政法ノ主意ヲ轉シテ權理ヲ以テ論スヘシ  
素ヨリ日本政府ハ推理ト余理トニ訴フルノ理アルカ故ニ  
道德上ニ於テモ又法律上ニ於テモ俱ニ益鞏固タル地位ニ  
達スヘシ然ルレハ各國ハ反テ自ラ我ニ懇求スルノ場合ニ  
至レヘシ然リ而テ欧州ノ公然タル諸新聞紙中ニ日本政府  
ノ目的ハ緊急ノ要務ニシテ且公平正直ナルノ理由ヲ掲載  
シ以テ廣ク衆意公論ニ付スルヲ肝要ナリ素ヨリ欧米各國  
殊ニ獨國ノ如キハ方今実験上ヨリ輿論ノ帰着スル所專ラ

保護主意ニアルカ故ニ他国ハ獨逸帝國ト懇和ノ商議  
ヲ開クニ大ニ助カトナレハシ殊ニ又獨逸政府及ヒ人民ハ  
日本国ニ對シ大ニ親愛ヲ有スルニ於テオヤ

